

東北教区報 2024年1月号

あけぼの

発行所

日本聖公会 東北教区

仙台市青葉区国分町2-13-15

TEL 022-223-2349

FAX 022-223-2387

URL <https://nssk-tohoku.com/>

決して専門家ではありませんが、まずは俳句の話から。
「古池や 蛙飛び込む 水の音」という芭蕉の句。ここで味わうべきは「水の音」と表現されているものの、実は無音、静寂、沈黙と言っても過言ではありません。
水の音によって響いた沈黙の世界の余韻、これがこの句の本来の味わいだと言われます。
あるいは、「閑けさや 岩にしみ入る 蝉の声」に至っては、もっと鮮明に音の背後にある沈黙の世界を浮かび上がらせています。蝉の声は静けさどころではありません。しかし「静けさ」ではなく「閑けさ」と詠んで深閑と静まりかえる寺のその閑けさを、岩にしみ入る蝉の声から聴いた、というのがこの句のもつ趣なのでしょう。つまり、強音の背後に隠れた負の世界を感じる芭蕉の感性がそこにはあると言えます。

クリスマス メッセージ

静寂の中に響く声

司祭 ヨハネ 八木 正 言



こうした俳句の世界にも見られる「負」に対する感性が薄れてきて、結果、現代人が無音に弱くなってきた、現代は無音や沈黙の世界が失われつつある、そう評するあるオーディオ評論家のコメントに、だから大きく頷きました。同時に、そのような音

に、だから大きく頷きました。同時に、そのような音

です。
さて、この「深い沈黙」「無音の静寂」の世界の大切さを心に留めながら、思い出した場面、それが最初のクリスマス之夜です。私たちはこの場面を、クリスマス・クリプや聖画を通して、映像的には案外容易に思い巡らすことができるのかもしれませんが、しかし「劇／絵／画像」でなく、これを音の世界でイメージしてみるとどうでしょうか？
そこにはやはり、「深い沈黙」「無音の静寂」の世界があったのだと思うのです。馬小屋のみならず、クリスマスに纏わる様々なシーン、すなわち聖母マリアが天使からみ告げを受けたときも、羊飼いたちがみ告げを受けたときも、クリスマスに纏わる場面はどれも、深い静寂の世界があり、だからこそ天使の声が響いたのだと。詩編に「語ることもなく、言葉もなく、その声は聞こえない。その声は全地に、その

言葉は世界の果てにまで及んだ」（詩編19・4-5）とある通りで、まさにそれが世界で最初のクリスマスだったと思うのです。星が昼間の明るさの中では見えないように、希望という名の光、あるいは音は、暗闇や静寂があつてこそ心に響いてくるのだと。

クリスマス、私たちは目に見える明るさや心を躍らせる音にばかりに心を奪われていないでしょうか。政治家は信用ならない、経済の先行きは不透明、戦争は起る、私生活においても悩みや不安が残念ながらある…確かに今世界はそんな状態です。しかしこういうときこそ、実はキリストの光の眩しさが、静寂に染み通るキリストの声が、私たちの心に力をもつて届くときでもあることを信じていたい、そう思います。

すると必ずや、「今日、あなたがたのために救い主がお生まれになった」という天使の声が聞こえてくるのだと思います。今年のクリスマス、その声をご一緒に聴くことができますようにと祈りつつ。

(仙台基督教会牧師)

日本聖公会東北教区

第108(定期)教区会 報告

11月22日(水)～23日(木) 於 仙台

2023

年11月22日

(水)～23日

(木)、日本

聖公会東北

教区第10

8(定期)教

区会が4年

ぶりに仙台

基督教会を

会場として

開催されま

した。

今教区会

は2日間の

議事日程で

行われまし

たが、特に

1日目には初めての試みとし

て、宣教協働を進めている北

海道教区の教区会とオンライン

で繋いで、お互いの教区の

教会を紹介し合う「北国セッ

ションおぼんです」が行われ

ました。各教会持ち時間30秒

という制限の中でしたが、と

ても楽しく盛り上がり、お互

いを知り合う機会となりました。

その後議事を再開し、長谷川清純主教より主教告示がな

され、今年は多くの先輩聖職

者たちが天に召されたこと、

人事のこと、トータルミニス

トリーのこと、北海道教区と

の宣教協働のことなどが話さ

れました。また1日目の最後

には常置委員会企画の研修会

が開かれ、八木正言司祭から

「キリストの教会であること」

というテーマでお話があり、

物事を「キリストの視点」で

俯瞰することの大切さを学び

ました。

2日目は開会聖餐式から始

まり、諸報告を終えた後に、

常置委員・総会代議員選挙が

行われました。

諸報告においては、それぞ

れのグループや執行機関から、

未だ新型コロナウイルス感染

症の影響はあり、注意が必要

なものの、過去3年に比べれ

ば、アグレッシブに動き始め

ているということが、随所に

報告されました。

議案においては、10の教会

から上程された教区との法人

格一元化に向けた議案が可決

されました。また特筆すべき

ものとして、昨年に引き続き

北海道教区と同一の議案であ

る「チーム北国の継続と拡大

について」と「東北教区・北

海道教区宣教協働・教区再編

に向けてのミッション・ス

テートメント」が可決された

ことは、北海道教区との宣教

協働に向けて大きな一歩とな

るものでした。

本教区会に上程された28の

議案は全て可決されました。

また選挙については上述の通

り、常置委員と総会代議員に

ついて行われました。その他

詳細は各教会に配付されます

決議録をご参照ください。

(編集部)

選挙結果

常置委員

司祭 越山 哲也

司祭 渡部 拓

司祭 八木 正言

赤坂 有司(仙台基督教会)

坂水 かよ(盛岡聖公会)

畠山 秀文(弘前昇天教会)

総会代議員

司祭 八木正言

司祭 林 国秀

畠山 秀文(弘前昇天教会)

赤坂 有司(仙台基督教会)

主教告示

主教 フランシス 長谷川清純

本日、ここに東北教区第

108(定期)教区会を開催

できますことを、全能の神様

に感謝いたします。またこの

教区会のためにお集まりくだ

さいました聖職議員・信徒代

議員の皆さま、また教区諸役

員の皆さま、関係諸団体の皆

さま、補助書記の皆さまにも

感謝申し上げます。2日間に

わたるご審議をどうぞ宜しく

お願い致します。

はじめに

去る4月22日の主教按手式

では新型コロナウイルス感染

予防の観点から、限られた参

列者とオンラインにより参加

された皆さまから篤いお祈り

と祝福を賜りまして心から感

謝申し上げます。またご準備

から事後の整理まで務めてく

ださいました関係者の皆さま

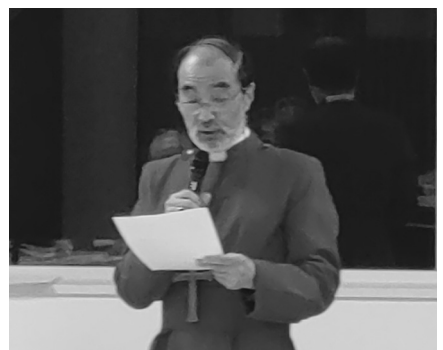
には、本当に有り難うござ

いました。

私が主教となり半年が過ぎ

ましたが、主のお導きとお支

えがなければ、そして信徒の



皆さま方お一人おひとりのお祈りがなければ、とても務まらないことだったと自覚しています。毎主日礼拝で私の名前をあげて代祷をおさげいただき感謝の気持ちで一杯です。お祈りの力によって私は支えられております。本当に有り難うございます。

他方、この半年間に、敬愛する東北教区退職司祭さま3名が天の主のみ許に召されました。5月にヨハネ齊藤政信司祭、6月にヨハネ佐藤真実司祭、そして9月にはヨハネ小野俊作司祭です。大先輩であり同労者を続けざまに失い私には本当に辛い出来事でしたが、先輩司祭たちが残された聖職としての働きの足跡を大切に記憶して、励まされた



協働をいただいていることに深く感謝申し上げます。

奉仕職への召命と

トータルミニストリー

私たち東北教区には、かねてより働き人が求められてきましたが、今や聖職者だけではなく信徒の働き人も同時に求められています。奉仕職養成グループでは、信徒の奉仕職や特任聖職に積極的な関心を注ぎ活動しております。

2019年から「せみなりお青葉シリーズ」を刊行し、これまでに「み言葉の礼拝における勧話」「み言葉の礼拝の手引き」「礼拝と祈禱書」の3冊を発行しました。これらのテキストにより私たちの礼拝についての理解が深まりました。またオンラインによる「奉仕のススメ」が回を重ね、

来月は6回目で、北海道教区の聖職者のお話を伺う機会が持たれます。これは北海道教区との宣教協働の一端でもあり、このような具体的に交流する時が今後益々増えていくものと期待しています。私たち東北教区では、このように信徒と聖職がバラバラには

なく、主の福音を宣べ伝えるという一つの使命を遂行するために、一緒になつて働くトータルミニストリーを実践する方策を求めています。そのような信徒と聖職者が協働していく中から、聖職候補生が与えられますようにと祈ります。

議事日程の諸報告にあるように、教区展望会議をはじめ教区の各グループ、例えば青年グループやコラボレーション推進グループ等が福音宣教のために盛んにチャレンジしています。また規則・規程グループでは教区の実態に合わせて見直しを繰り返し、様々な面での充実を図っております。絶えず祈り、ためずに歩むには刷新と持久力が伴うものと思います。

基本財産変更
昨年の教区会で、新庄聖マルコ教会と鶴岡聖公会が「山形聖ペテロ教会に合併する件」と「基本財産変更の件」が承認されて、各々本年1月15日と1月19日に礼拝堂聖別解除式がなされ、建物が解体され、更地となり売却されました。

宗教法人一元化
昨年の教区会で室根聖ナタナエル教会がまず法人一元化しました。私たちがこれから北海道教区との宣教協働と教区再編に取り組むために進めている法人格の一元化は、今教区会において10教会が議案提出となりました。残る5教

会には、諸手続上の問題をクリアーして必ず来年度に実現されますようにお願い致します。北海道教区はすでに全教会が一元化しており、今後の北海道教区との協働の歩みを考えますと、遅滞のないように浅原和裕総務主事の協力を得ながら進めていただきたいと思っています。

今教区会には、仙台基督教会西の平聖パウロミッシェンと、台原の主教邸に関する議案が上程されています。主教邸解体は、教区内に空き牧師館が生じている状態に対する柔軟な対応への答えです。西の平聖パウロミッシェンは、今週末の11月25日午前に閉所礼拝を献げます。伝道所に集われた信徒は、以後仙台基督教会で礼拝、信仰生活を続けられます。仙台圏における新たな展開が始まろうとしています。

東北教区・北海道教区宣教協働
(チーム北国)
昨年の定期教区会において、東北教区と北海道教区は、「チーム北国（東北教区・北海道教区宣教協働タスクフォース）」の設置を共に決議し、冬期間を経て本年3月からチーム北国の月例会合を、仙台と札幌を相互に会場にして精力的に計8回開催しました。直近の第9回はオンライン



ンで開かれました。両教区の宣教協働と教区再編について検討を進めてきましたが、私が定年退職する2028年3月を目途に、5年間協議を進めることとしロードマップが作成されています。

私の主教按手式での説教を笹森田鶴主教がされ、5月の北海道教区大礼拝に私が招かれて説教をし、9月には両教区合同教役者会を函館で開催、また教区婦人会会長ソフィア赤坂康子さんが北海道教区婦人会総会に招待されました。他にも1月の執行機関拡大合同会議に大町信也司祭が北海道教区から参加、拡大展望会議には大友宣さんが参加し、前述した奉仕のスズメにも3人の司祭たちが発題予定と、すでに様々な場面で両教区の主にある交わりが繰り広げられています。この宣教協働が進展するために今教区会に2つの議案が出されました。チーム北国では両教区の強いところと弱いところを出し合い、それぞれの特徴を把握しながらそれを生かす道を求め、両教区が神様に導かれて分かち合い、助け合いたいと願っ

ています。

今夜は先ほど行ったように、東北・北海道両教区会を映像で結び、全信徒代議員から挨拶を送る「北国セッション」おぼんです」が企画されました。このような出会いがセツトされたことに感謝します。

北海道教区は1874年に伝道開始され、来年が150年という記念の年を迎えます。着々とプレ150年事業が面白いアイデアで進められています。改めて私たち東北教区からはお祈りと声援を送りたいと思います。両教区が再編されたのち、私たちの属する東日本宣教協働区すなわち東京教区・北関東教区との宣教協働が、また具体的に協議されることになるでしょう。

終わりに

本日付で「主日礼拝ならびに教区宣教活動のための指針No.12」を発信しました。内容はインテンクションによる二種陪餐に戻すことと、愛餐会等の共食はいましばらく様子見を継続とすることの2点です。各教会には各々が置かれた地域の実情に合わせて活

動していただきますようお願い致します。

今年7月に発生した秋田県豪雨では、市内の広範囲が被害を受けました。秋田聖救主教会の信徒たちも床上または床下浸水に襲われました。すでに数教会から支援金が送られていますが、教区からも見舞金を出すこととしています。教会関係のみならず、被害に遭われた方々の上に、神様のお慰めと癒しが与えられますようにお祈り致します。

最後になりましたが、一般財団法人白石庵敬神会には、主として東北教区の公益的な事業である「幼児教育事業」に対して多大なる援助とお支えをいただいておりますことを、心より感謝申し上げます。

また東北教区婦人会の働き、東北教区にとっては宣教の協働者である東北教区保育連盟とその加盟園の働きにも感謝申し上げます。また本日はこの場におられません、礼拝協力をしてくださっているヨハネ佐藤忠男主教とヨハネ加藤博道主教にも、心より感謝申し上げます。

そして、今教区会にご出席

いただいております一般財団法人白石庵敬神会代表理事のバルナバ赤坂有司さんとヨハネ村上道夫さん、東北教区婦人会長のソフィア赤坂康子さん、東北教区保育連盟会長のアイリーン坂水かよさんをご紹介します。

世界の聖公会・管区・教区

去る11月10～13日に山梨県の清里・清泉寮を会場に「日本聖公会2023年宣教協議会」が「いのち、尊厳限りなもの」となりびととなるために」をテーマに開催されました。教区からは8名が参加し、宣教協議会実行委員の越山哲也司祭(副実行委員長)と赤坂聖矢さんが献身的に働かれたことご報告致します。

協議会の様子は来年1月に開かれる執行機関拡大合同会議で詳細に伝達される予定です。会期中にはまとまりませんでした「清里からの呼びかけ」が出てきますので、教会で共有し分かち合い、宣教活動の活性化につながるようにと期待します。

2022年8月にイギリスのカンタベリーで開催された

ランベス会議から「ランベス・コール」が發布されています。現代社会における宣教が宣言されています。日本語訳は最終チェック段階で、間もなく全国に配布される予定です。また、その中で「セーフ・チャーチ・ガイドライン」が1つの重要なテーマとなっています。教会内におけるハラスメント防止を呼びかけるものです。セーフ・チャーチ・ガイドラインの冊子は本日皆さまのお手元に届けられています。完成版ではなく、正式にはもう少し日本語が練られてから、来年5月の日本聖公会総会に報告されます。真剣にお読みくださいますようお願いいたします。

以上、世界の聖公会と日本聖公会との方向性を我が事として捉え、私たち東北教区がイエス様のお心と行いに倣い、神と人々に仕えていく教会としてますます成長し、神様の御栄光を現していけますよう務めたいと思います。各々の教会の上に、また信徒、聖職の皆さまの上に、神様の豊かなお守りとお導きがありますようお願いいたします。



名取市震災メモリアル公園の慰霊碑

地が多い地区で、テレビで津波が襲う様子が繰り返し映し出された所です。

この関上にある名取市震災メモリアル公園内の日和山は、今とは全く違う昔の賑わいのあった名取市関上周辺をジオラマで見ることができました。ジオラマで見ると、この地区がいかに平地であるかがよく分かります。関上港は日曜日の朝市で、ようやく震災前の賑わいが戻ってきたようです。

お昼には、これも大きな被害を受けた農業地区に建てられた「アクアイグニス」という温泉もある洒落た施設で昼

第7回 東日本大震災被災地巡りツアー 「被災地を巡って」

仙台聖フランシス教会 パウロ 齋藤 眞三

10月28日に行われたツアーは、仙台市近郊の関上・荒浜コースでした。私は被災後の同地区を何回か訪れていたの

で、今回初めて思ったのは、だいたい綺麗に整備されたということです。この地区は海辺から仙台空港などの平



震災遺構 仙台市立荒浜小学校

食をしました。

最後に訪れたのがテレビなどでよく取り上げられる震災遺構の仙台市立荒浜小学校です。ここは海が近く、校舎には津波による破壊の跡がくつきりと残っています。一人の犠牲者も出なかったことは驚きでした。津波が押し寄せる映像をみていると心が痛くなるとともに、普段から防災訓練や避難訓練を定期的

東日本大震災被災者 支援プロジェクト報告

◇11月8日「水曜喫茶支援」は、スタッフを含め6名の参加で実施されました。各方面からの差し入れに感謝です。◇リーフレット更新を急いでいます。主教あいさつ、「被災地巡り」の写真の入れ替えなどを行います。◇2024年3月11日震災13周年を迎えるべく諸準備に入りました。記念講演会の講師は再び会津放

射能情報センター代表・片岡輝美氏をお招きし、震災による子どもたちを取り巻く問題について改めてご提起いただきたいと考えております。教区保育園の保護者も含めた関係者の皆さんとともに進めたいと思います。オンラインでも配信の予定です。詳細は決まり次第お知らせしますので、多くの皆さんのご参加をお願いいたします。

御子を信じる者が一人も減びないで、永遠の命を得るためである。(ヨハネによる福音書第3章16節)

(リーダー 浅原和裕)



聖マーガレット教会



聖マーガレット教会は、札幌駅の南西約5キロに位置する山鼻地区にあります。藻岩山の山麓にあたり、病院や学校、様々な社会福祉施設が点在する住宅地となっています。この地域に1950年、札幌聖公会の南地域における伝道所が個人宅にて発足。やがて近隣に主教邸とマーガレット女子寮が設立され、その礼拝堂が聖マーガレット教会の母体となりました。3年後、創立70年を迎えます。現在の堅信受領者は約50名。主日礼拝を約20名の信徒で守っています。

ヴァイアル山荘「今年1年を振り返って」

十和田湖畔施設活用グループ リーダー 島守 信昭

11月3日(金)、ヴァイアル山荘で「秋祭り&閉所式」を行いました。当日は、午前中のぐずついた天気、開始時間の正午にはすっかりと晴れ

上がり、気温も高く風も穏やかになり、とても過ごしやすい秋祭りとなりました。参加者は6教会から25名。山荘前の広場には万国旗が飾られ、イワシ焼きや棒パンそしてワインナーなどが並べられました。豆大福もありました。山荘内には、ヒメマス寿司や秋田こまの新米おにぎりなど、どれを食べても美味しいものばかりで、皆さんに喜んでいただきました。同日開催は参加しやすいとの意見が多く寄せられました。

今年度は、8月5日(土)に鉛山礼拝堂で平和の祈りを行いました。長谷川主教さまを



始めとして、35名の方々から参加していただき、礼拝後、山荘で「山荘で聖歌とトーク」のイベントを開催。日本聖公会聖歌集から選定した10曲を歌いました。「聖歌をこんなに沢山歌ったのは何年振りかです」とか「とても充実した時を過ごせました」などと言う声が寄せられました。

ヴァイアルクラブは、山荘の円滑な運営を計り、次世代まで維持・継続をすることを目的に5月に発足しました。今年度の入会状況は、団体メンバー6教会、個人メンバー45名です。お陰様でグループは、「山荘の管理」と「利用拡大」の2点に力を集中することができました。「管理」は6教会が月交代で行いました。



駐車場や広場を整備し、転落防止の柵を設置しました。「利用拡大」のためには、まずは皆さまに山荘にお出で頂き、その「心地よさ」を体感して頂くことが第一と思っています。ご高齢の方々が安心して出入りできる環境作り、子どもたちが安全に遊べる山荘を目指して整備を進めて参ります。

2024年の開所式は4月27日(土)、秋祭り&閉所式は11月2日(土)。8月10日(第2土曜日)に「十和田平和の祈りの日」を開催します。皆さまが参加しやすい日程にしたつもりです。ヴァイアルクラブメンバー継続をお願いするとともに、山荘へのお出でを心よりお待ちしております。

常置委員会報告

(第14回・11月15日)

報告事項

▼主教動静と今後の予定について報告・11月10日(金)・13日(月)に日本聖公会宣教協議会(清里)に参加したことを報告。

▼常置委員長報告・第108(定期)教区会に提出する常置委員会関連の議案すべてを書記へ提出したことを報告。

▼執行機関報告・教区財務状況報告。

協議事項

▼新型コロナウイルス感染症に関する指針の見直しについて協議し、新たにNo.12の指針を示すことを決議。

▼第108(定期)教区会の諸委員を確認。研修内容について確認。22日19時から30分実施される北海道・東北両教区を繋いで行うプレゼンテーションと、両教区の代議員が相互に「挨拶」を送るプログラムについて改めて確認。

▼若松諸聖徒教会の聖堂建築について、常置委員選挙に関する規定について来期教区会期の常置委員会に引き継いでいくことを確認。

常置委員会報告

(第1回・11月23日)

報告事項

▼役割分掌について

・常置委員長の互選

主教が仮議長となり、第108(定期)教区会で選出された常置委員で委員長を互選した結果、赤坂有司委員を選出、全員一致で決定した。

・書記の選出

常置委員長となった赤坂有司委員が議長となり書記を選出した結果、渡部拓司祭を書記に選出、全員一致で決定した。

東北教区ハラスメント防止・対策委員会 主催

あなたの心の中を覗いてみませんか？

ハラスメントについての理解を深める研修会です。東北教区外部相談員でもある臨床心理士が、誰もが持つ「心に潜む影」について語ります。

日時：2024年2月12日(月) 13:00~15:30

会場：仙台基督教会2階 ピンステッド主教記念ホール

講師：大村 哲夫 氏(臨床心理士・上智大学特任教授)

※所属教会牧師にお申し込みください。参加は無料です。

シリーズ
わたしの道の光

「生かされて」

盛岡聖公会

執事 ヨハネ 金子 昭三

1943年
4月先の大戦
の最中、私は
学徒出征とし
て茨城県内原

の陸軍訓練所で3カ月の軍事訓練を受け、当時満州国鞍山の満州製鉄株式会社製鉄学院電気科へ入学いたしました。鞍山はアカシア並木が美しく、治安も良く、広い工場には当時東洋一とも言われた溶鉱炉が9基そびえ立っておりまして。然し1945年に入り、米国のB29延べ400機の爆撃があり、その殆どが破壊されてしまいました。

終戦後まもなく今度はソ連の戦車隊が押し寄せ、自動小銃を突きつけ、工場の重軽機械設備の大半を取り外しをさせて戦利品として持ち去りました。シベリアに連行された方々もおられます。私たちは寮の一室をサロンとして翌年

8月まで生活しておりました。その中には弁護士、医師、元役人の方々もおられました。

私は特技のスーパーヘテロダイン・ラジオ受信機を組み立て日本の放送を聞きながら、その中の一員となっておりました。学友の中には中国の八路军と蒋介石軍の戦いで使役として働かされ、命を落とした方もおられます。そしてようやく、翌年8月に帰国の途に就いたのであります。故郷岩手は緑が美しく蝉も鳴いて、国破れて山河あり、そのままでありました。それから翌年4月東京新橋駅前の高木法律事務所招かれ、書生勤務し夜学にも通いました。

しかしその2年後、肺結核に冒されて帰郷し、盛岡中央病院にて手術を受け、その後花巻温泉のサナトリウムに入所いたしました。そこには比較的元氣な方が多く、合唱や聖書研究会もあり、私もその一員となりました。私は読書会を立ち上げ好きな作曲等も行い、退所の際は私の歌で送って頂きました。退所間際に盛岡聖公会信徒の一井千代子(後の妻)が入所してきて、

パウロ村上秀久司祭を紹介されました。後に教会を訪ねると、大きないちようの木と礼拝堂の十字架が、一瞬本当の人生の故郷に帰った気がしたものです。司祭から司祭館の藤椅子に招じられ、時の経つのを忘れる程話し合いました。

帰り際に司祭は私の手を握って離さず、「あなたの若さをこの教会の為に捧げてください」と言われました。それからの私は毎主日礼拝は元より水曜日の聖書研究会、土曜日の聖堂清掃、日曜学校の奉仕等に参加させて頂きました。

その年のクリスマスには竹馬の友、照井寿弘君を誘って満25歳で洗礼を受けさせて頂きました。また、その後父と母も洗礼を受けました。1954年4月に聖婚式を挙げさせて頂き、教会の近くに電器店を立ち上げました。その後、満50歳で特任聖職を志願し、4年後田崎安男主教より執事按手を受けました。

働きながらのご奉仕を70歳で定年後の今も月一回の説教を行わせて頂いております。

満95歳の翁から感謝。

主教コラム



11月22日、第108(定期)教会会が開かれ議事日程どおりに終了しました。私は初

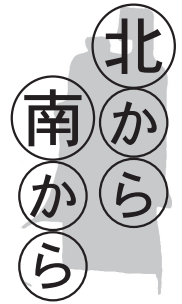
めの議長で、果たして首尾よく進行するかと心配してとても緊張して臨みましたが、書記局と補助書記の運営、また何よりも信徒代議員と教役者議員のご協力により全報告を承認、全議案が議決されて、神さまからの大きなお恵みと感謝しました。

教区の今後にとっていくつもの重要な議案がかけられましたが、特に言及したいのは、「チーム北国の拡大・期間延長・名称変更を採択する件」と、「東北教区・北海道教区宣教協働・教区再編に向けてのミッション・ステートメント2023を採択する件」です。「ミッション・ステートメント2023」本文は以下のとおりです。『今こそ、恵みの時、今こそ、救いの日です。(Ⅱコリント6:2b) 私たちが一つになることで目指すのは、

多様性を積極的に受けとめ、弱さの中で福音を宣べ伝え、行きつまりの中で宣教的視点を転換する福音の実践です。そのために、祈りと協働をもって、東北と北海道の人びとが持つ痛みと喜びを分かち合います。東北教区と北海道教区は、一つの教区となるヴィジョンを共有します。また、あらゆる分野で宣教協働の取り組みを行います。』

私が定年退職する2028年3月を目途に今後5年間、宣教協働を進めると共に、両教区の合併に向けた教区再編という具体的な成果を得るようにと、チーム北国に「宣教協働」「組織」「財政」「広報」のセクションを既に設けて担当者人数を増やし、より具体的な協働体制の強化を図ろうとしています。これからのプロセスにも沢山の困難や苦悩が待ち受けているかもしれませんが、神さまが私たちの先を行かれて招いておられると信じ、主に信頼して聖霊に導かれてまいりたいと願っています。

(教区主教)



八戸聖ルカ教会

11月17日、八戸東靈園に於いて、6月に逝去されたヨハネ佐藤真実司祭の埋骨式が行われました。

同師は教会と幼稚園の現在地への移転に尽力され、また、八戸は最後の任地でした。

別れを惜しむかのような雨の中、御長男一路氏により、夫人の眠るお墓に埋骨されました。式の終わる頃には雨もやみ、百合子夫人と共に居ることができて、安心なされたのだらうと思われました。

弘前昇天教会

11月3日のヴァイアル山荘秋祭り&閉所式には、弘前から李司祭合わせて6名参加いたしました。通常であれば昇天教会から1時間程度で到着するところ、国道454号線の通行止めで大きく迂回し、片道1時間半以上かかりましたが、美味しい秋の味覚を満

喫し楽しい時間を過ごすことができました。

これからまたいろいろなイベントなどが増えて教区の方々が交流し、情報交換などできる場が増えたらと思います。

釜石神愛教会

11月22日の(定期)教区会では、19時からオンラインで繋ぎ、北海道教区と東北教区の各教会信徒代議員による各教会紹介の時間が用意されました。

先行は東北教区。釜石には東日本大震災の時に多くの北海道教区の皆さんが応援に来てくださったので、懐かしい方々のお顔を拝見することができてとっても嬉しかったのですが、各教会持ち時間30秒での紹介はあっという間で、筆者は只々元気に笑って終わってしまいました。苦笑。

秋田聖救主教会

7月15日に発生した集中豪雨により、信徒の家屋が多数被害に遭いました。東北・北海道教区の合同教役者会、青森県、宮城県、山梨県、秋田県の教会から多くの義援金を

頂戴し、被災した信徒の方々に配ることが出来ました。紙面をお借りして、厚く御礼申し上げます。

コロナ禍で出来なかった対面の行事も徐々に再開し、11月19日には子ども祝福式と、財政についての信徒懇談会を開催しました。

米沢聖ヨハネ教会

みんなの心を癒してくれた綺麗なプラントの花々に感謝しながら、雪が降る前にみんなで片付けました。ふと足元を見ると小さな澄んだ水たまりが真つ青な空を精一杯、いっぱい映そうとしていました。この澄んだ小さな水たまりのように、私たちも神様の

栄光を映す鏡になりたいと思いました。

厳しい冬がすぐそこまでやってきました。そこに背を向けずに信仰心を持って立ち向かっていこうと思いました。

若松諸聖徒教会

異常な暑さの夏、短い秋を経て急ぎ足で冬が近づいてきましたので、幼稚園の植木に冬囲いをしました。

その日は年長さんが勤労訪問に出かけていてお留守。園庭には二、三人の園児と先生一人で寂しい感じ。女の子が「やりたい」と側に来て私のまねをして植木に縄をぐるぐると巻きつけ、剪定ばさみやのこぎりにも興味津々。一緒に園庭の冬支度をした小春日和の出来事でした。

洗礼おめでとう

ヨハネ 三浦 智弘
グレース 富山 のぶ子
(11月26日・仙台)

堅信おめでとう

ヨハネ 三浦 智弘
グレース 富山 のぶ子
(11月26日・仙台)

1月逝去者記念聖餐式

1月10日(水) 午前10時

於 主教座聖堂

司式説教 長谷川清純 主教

執事 ヨハネ福島 政美

2003年1月1日逝去
執事 アナシウス 佐々木 康一郎

2020年1月3日逝去

司祭 サムエル 秋山 久之

2020年1月7日逝去

Mrs. Waller

1939年1月9日逝去

司祭 ステパノ 宮城 俊彦

1995年1月13日逝去

司祭 ペテロ 細貝 岩夫

1985年1月17日逝去

司祭 E.R.Harrison

1937年1月19日逝去

司祭 Charles H. Evans

1955年1月20日逝去

司祭 アンデレ 青木 伊八

1966年1月31日逝去

主のご降誕を

お祝いいたします

どうぞよきクリスマスを
お迎えください。

広報グループ一同

